

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：24303

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463533

研究課題名(和文) マルチリスクマネジメント機能を備えたソーシャルキャピタルの成熟化とその効果検証

研究課題名(英文) Relation between life satisfaction and social capital in super-aging society of urban district

研究代表者

星野 明子 (Hoshino, Akiko)

京都府立医科大学・医学部・教授

研究者番号：70282209

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究者らは、A小学校区の住民組織6団体と公的機関2団体、大学による「A健康まちづくり会」を7年前に結成し、年2回イベント(5月の体力測定とウォーキング、11月の学習会と運動体験)、活動参加100回記念表彰を実施している。65歳以上291名(回収率12.5%)を対象とした調査の結果、先行研究と同様に高齢者の孤独感と社会的つながりを示す項目に関連が見られた。京都市は小学校区ごとの体育会や地蔵盆が継続されるが、高齢化が進み社会的つながりの希薄化による住民のwell-beingへの影響が考えられる。本会は社会的つながりを醸成する住民参画による地域包括ケアシステムの1モデルとして示唆を得ると考える。

研究成果の概要(英文)：The author has organized the A Health and Community Development Association (The A-kai) with a neighborhood self-governing association, the Senior's Association, the local elderly care management center. In this study aimed to verify the effects of social capital in the super-aging society. An inventory survey was conducted for 2,015 residents. Responses were obtained from subjects who were 65 years or older 291 (collection 12.5%). Positive correlation with life satisfaction was seen in frequency of going out, economic capacity, depth of association with neighbors, and negative correlation with it was seen in loneliness and depression. Kyoto city is a local community where a number of festivals have been inherited. However, acceleration of aging may influence well-being of the residents which weakens the association of the local residents. The practice of the A-kai suggests a model as a concrete practice example of regional comprehensive care system by residents' participation.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：ソーシャルキャピタル 高齢者 孤独感 生活満足度 生活習慣 主観的健康感 社会的つながり

1. 研究開始当初の背景

都市部高齢化地域では、独居世帯や高齢者のみ世帯の増加と空き家がめだち、都市の限界集落化の様相を呈している。人とのつながりの希薄さが増す近年では、地域力やコミュニティ意識が注目されている。コミュニティ意識の高さは、主観的健康感や孤独感などの精神的な健康や健康行動との関連が報告される(村山 2011)。先行研究としては、都市部高齢者の暮らしを支える地域力や、A 小学校区の都市部空洞化地域の商店街に設置した小地域基盤型の交流の場“すこやかサロン(以下、サロン)”が、高齢者や壮年期世代の心身の健康に及ぼす影響について検討してきた(星野 2010)。サロンは、利用者の孤立感との関連が認められ、利用者にとって身近な利用しやすい場として予防的健康支援の場として有効な機能を持つと考えられた。コミュニティ機能が低下した人間関係の希薄な地域で人々の暮らしを支えるためには、人々のつながりを促すことが必要である。

信頼関係や住民の力等と表わされるソーシャルキャピタルの豊かさは、経済、行政や公共政策、健康関連とも関連する(Putnam.R.D., 2001)。日本でも、健康格差や健康問題への対策の一つとしてソーシャルキャピタルが期待を集め(近藤 2010, 2013)、2010年の地域保健対策検討会では、介護予防事業や健康増進活動の対策にソーシャルキャピタルを活用することが取り上げられている。人々のつながりがもたらす力については、コミュニティ心理学分野のコミュニティ感覚(Sarason S.B., 1974)や、ソーシャルキャピタルの測定尺度の検討(大賀 2010)、ソーシャル・キャピタルの地区評価(埴淵, 2008)がある。しかしながら、ソーシャルキャピタルの実践の効果を校区単位で検証した報告はされておらず、ソーシャルキャピタルの持続的な実践介入効果を検証した調査は少ない。高齢社会における多世代の健

康問題が浮上している今だからこそ、ソーシャルキャピタルの実践とその評価が求められていると考える。

2. 研究の目的

高齢者世代の社会的孤立と健康の影響や、少子化による子育て世代の孤立と育児不安の影響など、長寿社会における多世代の健康問題が浮上している。孤立がもたらす健康への影響について、信頼関係や住民力を表すソーシャルキャピタルの実践とその評価が求められる。

A 小学校区の複数の住民組織と共に“A 健康街づくり会”を結成し、ソーシャルキャピタルの醸成を目指してヘルスケアタウンプロジェクトを継続して実践してきた。本研究では、この都市部高齢化地域の A 小学校区での実践活動におけるソーシャルキャピタルの成熟化とその効果について検証することを目的とする。それによって、都市部超高齢化地域における健康支援モデルの構築に貢献するものとする。

3. 研究の方法

A 小学校区は、65 歳以上高齢者 1,139 名(高齢化率 31.4%)、京都市でも高齢化率の最も高い区内にある。研究者らは、A 小学校区の自治連合会、体育振興会、学区社協、シニアクラブ、女性会等の住民組織、地域包括支援センター、予防介護推進センター、大学による「A 健康まちづくり会」を 7 年前に結成した。年 2 回のイベント(5 月の体力測定とウォーキング、11 月の学習会と運動体験)の実施や各組織連携の活動参加 100 回記念表彰などを継続し、既存の住民組織や公的機関、大学が連携し社会的なつながりを深めてきた。

対象者は、京都市 B 区の A 元学区(小学校区単位)の 40 歳以上総数 2015 名[男性 868 名, 女性 1293 名]である。自治連合会長および自治会長に研究の主旨を説明し、調査協力が得られた 40 歳以上の地域に在住する健常

な住民を対象とし、A小学校区住民2310世帯に自治会役員が自記式質問紙1部を配布し、回収は郵送法とした。

4. 研究成果

研究者(大学)は、A小学校区の地域住民組織である自治連合会、老人会、女性会、行政の委託機関の地域包括支援センター、予防介護推進センター-と“栗田健康まちづくり会”を結成し、ソーシャルキャピタルを醸成するプログラムを実施している。A小学校区は、京都市でも高齢者人口構成割合が最も高いB区にある。65歳以上高齢者1,139名(31.4%)である。A小学校区住民2310世帯に自記式質問紙1部を配布し、40歳以上の回答者427名(回収率18.5%)中の65歳以上291名(12.5%)を対象とした。調査項目は、性別、年齢、経済的ゆとり、主観的健康感、生活習慣、抑うつ度(GDS)、コミュニティ感覚意識(SCI)、社会的孤立感尺度(LSNS)、孤独感尺度(J-UCLA)として、孤独感と各項目の相関関係を検討した。本調査は京都府立医科大学倫理審査委員会の承認を得て実施した(受付番号 ERB-E-371)。

65歳以上の対象者の孤独感と有意な負の相関がみられたのは、主観的健康感、生活習慣得点、近所つきあいの深さ、近所つきあいの広がり、家族からの孤立、友人からの孤立、コミュニティ感覚の価値の共有、近隣との関わり、生活満足度であった($p<0.05$)。孤独感と抑うつ度は有意な正の相関があった($p<0.001$)。

京都市は、小学校区ごとに地区体育会や地蔵盆行事の催しを継続している地域が比較的多い。しかし、今後加速される高齢化は行事遂行の困難や社会的つながりの希薄化を招き、住民のwell-beingに影響を及ぼすと考える。本調査結果も先行研究と同様に高齢者の孤独感と社会的つながりを示す項目に関連が見られた。「A健康まちづくり会」は、社会的つながりを醸成する住民参画による地域包括ケアシステムの1モデルを示すとともに、都市部

超高齢化地域における健康支援モデルの構築についての示唆を得るものとする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

星野明子, 志澤美保, 臼井香苗, 石川信仁, 中川智子, 小田川敦, 南川沙, 尾崎玲奈, 古保理子, 細川陸也, 桂 敏樹: 市部高齢化地域におけるソーシャルキャピタルの醸成 A 地域健康力アップ大作戦の経過 . (査読有り) 京都府立医科大学看護学科紀要 26, 2016.

〔学会発表〕(計 3件)

1. 星野明子, 志澤美保, 臼井香苗, 桂敏樹 他4名: 都市高齢化地域A小学校区における高齢者の孤独感と社会的つながり, 第77回日本公衆衛生学会総会(福島市) 2018.

2. 臼井香苗, 志澤美保, 星野明子, 桂 敏樹 他6名: 都市部少子超高齢地域における住民参画による健康なまちづくりの持続可能性, 第75回日本公衆衛生学会総会(大阪市) 2016.

3. Hoshino Akiko, Katsura T, Usui K, Shizawa M, Okutsu A: Health Promotion Strategy for Rapidly Aging Communities in the city of Kyoto (Part 1): The Philosophy behind Awata Health and Community Development Association's "Campaign for Improved Health. Maui Nursing & Allied Health Conference (Maui HI), 2015.

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

星野 明子(HOSHINO, Akiko)
京都府立医科大学・医学部・教授
研究者番号：70282209

(2) 研究分担者

松浦 光和(MATSUURA, Mitsukazu)
宮城学院女子大学・教育学部・教授
研究者番号：00149783

(3) 研究分担者

桂 敏樹(KATSURA, Toshiki)
京都大学・医学研究科・教授
研究者番号：00194796

(4) 研究分担者

志澤 美保 (SHIZAWA, Miho)
京都府立医科大学・医学部・准教授
研究者番号：00432279

(5) 研究分担者

春木 香苗 (HARUKI, Kanae)
京都府立医科大学・医学部・講師
研究者番号：50432315